

令和2年1月18日

質問と要望への回答

榎本専任者からの質問と要望（令和2年1月9日付）への回答は次のとおりです。
なお、質問と要望の内容は、事務局で要約していますのでご了承ください。

<要望事項>

1 展開検査について

(1)異物の混入

武蔵村山市の異物の中にペットボトルが3,110g混入している。

① 原因について問い合わせしてください。

A 武蔵村山市の担当者に、他2市に比べて、不適物の混入比率が高く、その原因はラベルの取られていないペットボトルによることを伝え、改善を要請しました。

市担当者からは、組合施設への影響の低減、資源化率の向上に向け、一層の市民啓発を図るとの回答を得ています。

② 市の段階で選別している可燃残渣・不燃残渣量のデータを示してください。

A 次表のとおりです。

なお、可燃残渣・不燃残渣は、残渣として集計していて、各々の量は把握されていません。

平成30年度実績	
容器包装プラスチック収集量（A）	1,074.160 t
容リプラ資源化量	794.160 t
ペットボトル資源化量	212.534 t
残渣量（B）	67.466 t
残渣率（B/A）	6.28%

(2)資源物の分類基準

展開検査では、「異物」「不適物」に分類している。

① 「異物」＝「不燃残渣」、「不適物」＝「可燃残渣」との理解でよいか。

A 一致していません。

異物A①著しく長いものには木の棒など、同②著しく重いものには厨芥類などが含まれます。

② そうでない場合、「不燃残渣」と「可燃残渣」の分類も必要ではないか。

A 次回の展開検査から、可燃、不燃が分けられるように分類方法を検討します。
ただし、布団を物干し竿に止めるハサミ、プラスチックのベルト、掃除機のホース、プラスチック製のおもちゃなど、金属とプラスチックの複合製品も多く、正確な分類にはこれらの分類に配慮する必要があります。

③ ペットボトルについても同様に分類する必要があるのではないか。

A ②と同様です。

(3) サンプル量

搬入量に対して展開検査のサンプル量が少ない。サンプル量を増やし、不適合率の正確な算出に努めるべき。

A ご指摘のとおりと考えています。検査回数を増やすことで対応します。

(4) 不適合品削減方法

不適合品の比率は15%から16%となっている。組合の目標10%はどのように達成するのか。

A 施設見学の積極的な受け入れ、収集運搬業者講習会の開催、ルール順守を求め3市への積極的な働きかけを行います。

(5) 行政担当者の立会

展開検査に各市行政担当者、市民の立ち合いを求めることは有効、前向きな検討を。

A 市の担当者の出席を要請するものとします。

市民については、今後の検討課題と考えます。

理由 ① 検査場所のプラットホームは、収集車の出入りがあり安全の確保に課題がある。

② 対象とする資源物が、見込みどおりの時間に搬入するとは限らない（抜き打ち）ため、待機時間が必要で、場合によっては検査ができないこと（空振り）がある。

2 各市行政担当者の出席

運営連絡会に各市担当者は出席してもらいたい。

A 運営連絡会の要望として、質問事項などがまとまった段階で要請することとします。

3 臭気の漏洩

臭気の漏れが何度か指摘されている。

(1) エアカーテンの機能

機能が発揮されていることを、現状でどのように確認しているのか。

A 確認していません。

(2)エアカーテンの性能試験

エアカーテンの性能試験は、どのようにして行ったのか。

A エアカーテン単独での性能試験は行っていません。

臭気漏洩の防止は、投入扉、プラットホームで入口扉及びエアカーテンなど、施設全体で行う設計となっています。

性能確認は、引き渡し性能試験により行っています。

4 ホームページについて

(1)構成

焼却施設、廃プラ施設、粗大ごみ処理施設を分けて内容を示している。

中島町の(ごみ処理)施設、桜が丘の(資源化)施設、地域ごとの構成への変更を検討ください。

(2)掲載内容

運営連絡会のウインドウを設けてアクセスしやすくし、内容として、今後の予定、地域住民側から出た要望・意見・質問なども掲載ください。

また、連絡協議会のページにも、同様の内容を掲載してください。

(3)掲載内容の配置

記事の掲載順序を時系列とし、トップに近い箇所に最新情報を掲載してください。

(4)データの表示

データ集のページを可燃物、不燃物、廃プラに分け、廃プラのページには、展開検査の結果を載せるなどの検討をしてください。

<ホームページに関する意見・提案、全体への回答>

A ホームページのリニューアルは、現在検討していますので、いただいた意見はこの参考とさせていただきます。

5 第6回運営連絡会における回答文書に関して

(1)質問6について

圧縮梱包を行う室の作業員の健康管理はどのようにになっているか。

A 労働安全衛生法の労働安全衛生規則第44条に基づき、1年に1回健康診断が行われています。

シルバー人材センター派遣職員については、上記規則の対象となっていません。

朝礼時において、勤務者相互に向かい合い、服装、顔色チェックを行っていま

す。

(2)質問8について

① 数値の誤記

A 10月の搬出量(A)338.9tは、414.63tの誤りでした。

結果、(A)合計は2,753.79tから2,812.23tに、 $B/A \times 100$ の計を18.44から17.71に訂正をお願いします。

申し訳ありません。

なお、値は容リプラとペットボトルの合計値です。

② 不適物の割合

不適物割合が15%から22%(平均17.7%)と高すぎるように感じられる。どのように捉え、どのような対応を考えているのか。

A 施設見学の積極的な受け入れ、収集運搬業者講習会の開催、ルール順守を求め3市への積極的な働きかけを行います。

③ 搬入量と搬出量の差

「搬入量合計」と「搬出量+残渣の合計」で後者が92トンほど少ない。その原因は何か。

A 資源物に含まれる水分及び搬入と搬出のタイムラグによるものと考えています。

資源物はピットに投入されますが、この時、含まれている水分はピットの底の汚水貯留槽に溜まり、下水道に流しています。この水の重量が減と考えると考えます。

タイムラグは、当日搬入分を必ずしもその日のうちに処理できるとは限らないこと(ピットの貯留)、成型品が全量搬出できるとは限らないこと(保管ヤードに貯留)により起こります。

④ 保管している資源の計量

ベールの未出荷分(保管している)、残渣の計量をしないと、正確な処理量が算出できないので、計量し報告してほしい。

A 保管しているベールの計量は困難です。

保管しているベールの重量を計量するためには、一つ一つのベールを計量する必要があります。ベールは1時間に10個程度成型していますので、その都度計量することは、運営上時間の確保が困難です。

⑤ ペットボトルの搬入量と搬出量の差について、

ペットボトルの4月から10月までの搬入量と搬出量を比べると、差が154tあり、早急に要因分析をしてください。

A 容リプラと同様です。

(3)質問13に関して

不適合品について、ホームページへの記載はいつまでに実施するのか。

A ホームページのリニューアルに併せて掲載したいと考えています。